

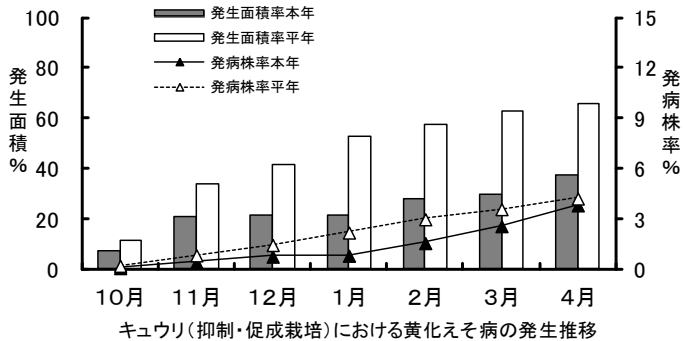
平成27年5月8日

高知県病害虫発生予察4月月報及び予報第2号(5月)

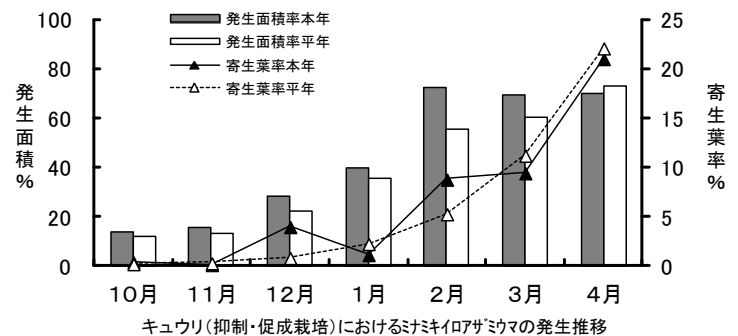
野菜類ダイジェスト版

● 抑制・促成キュウリ(中央部・中西部・西部)

黄化えそ病 発生量:少

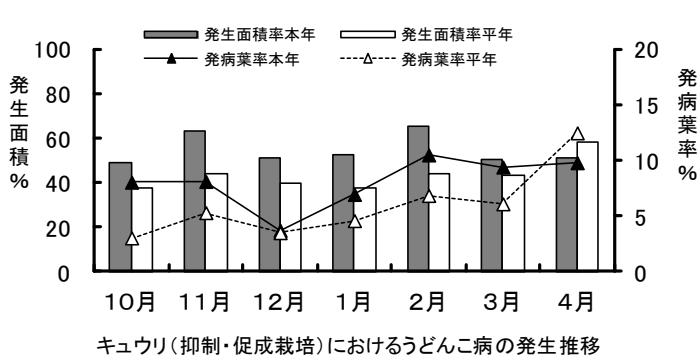


ミナミキイロアザミウマ 発生量:平年並

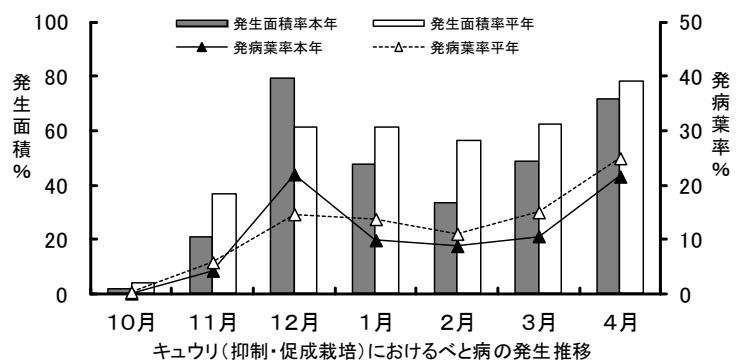


黄化えそ病の発生面積は県全体で少～平年並の発生で、程度の高い地域はありませんでした。媒介虫のミナミキイロアザミウマは中西部で多発生、中央部と西部では平年並の発生でした。発病株は伝染源となることから早期除去に努め、媒介虫の防除も徹底してください。気温の上昇にともない、特に、天敵を導入していないほ場では虫数の急激な増加が予想されます。ローテーション防除等を行い、虫数の増加を抑えましょう。

うどんこ病 発生量:平年並

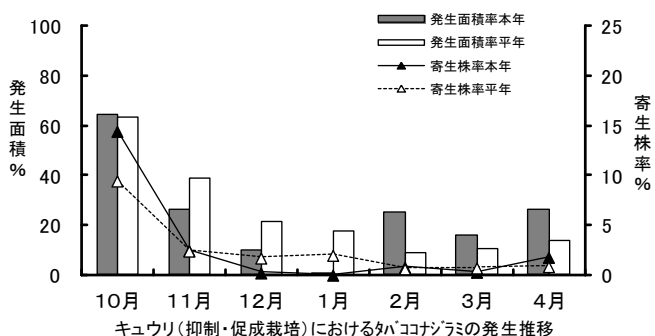


べと病 発生量:平年並

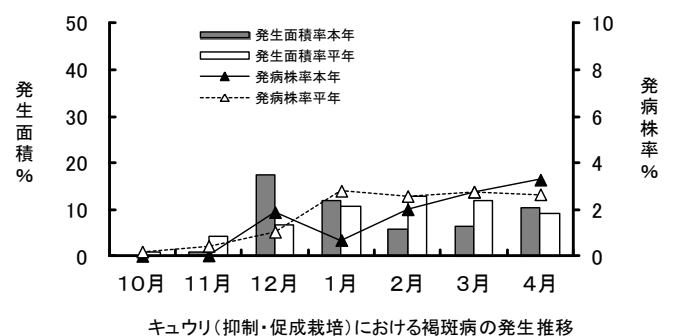


うどんこ病は県全体で少～平年並の発生でした。べと病は各地区とも平年並の発生となっています。5月は晴れの日が多い予想ですので、特に発生が助長される条件ではありませんが注意してください。うどんこ病、べと病とも、蔓延すると防除が困難となりますので、早めに発見して防除を行うとともに、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

タバココナジラミ 発生量:多



褐斑病 発生量:平年並



県中央部で多発生、中西部で平年並、西部では少発生でした。気温上昇にともない虫数の増加が予想されます。薬剤散布回数の少ない場合は春先に急激な増加が見られる場合があるので注意してください。

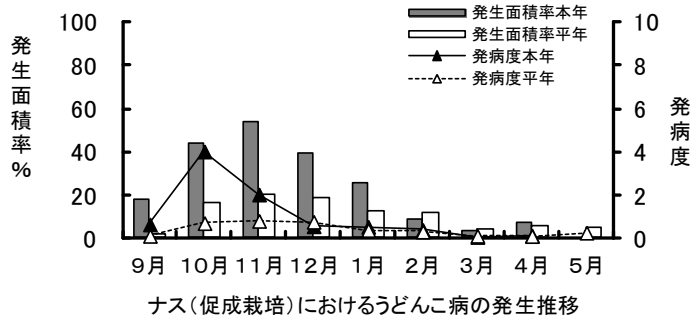
県全体で平年並～多発生となっています。5月は予想では晴れの日が多く、特に発生が助長される条件ではありませんが、特に褐斑病耐病性品種を導入していないほ場では、急激に発生が増加することがあるので注意してください。

高知県病害虫発生予察4月月報及び予報第2号(5月)

野菜類ダイジェスト版 平成27年5月8日

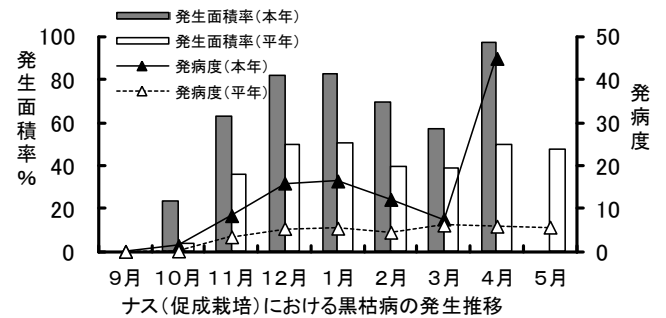
● 促成ナス(東部・中央部・西部)

うどんこ病 発生量: 平年並



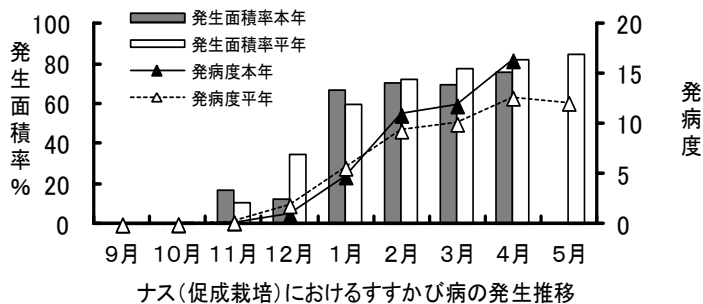
県中央部および西部では多発生ですが、県全般では平年並の発生となっています。発生の程度も全般的に高くはなく、下葉に散見される程度の発生がほとんどです。今後も大幅な発生の増加はないと思いますが、温湿度管理、草勢管理を適正に行い、発病を認めた場合には初期から防除を行いましょう。

黒枯病 発生量: 多



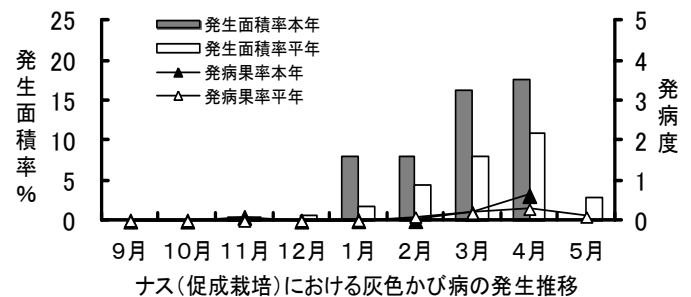
発生面積は県全域で多くなっています。程度も特に県東部で非常に高くなっています。5月は晴れの日が多い予想ですので、特に発生が助長される条件ではありませんが、定期的予防散布に努め、発病の初期を見逃さないように注意しましょう。既発ほ場においても、適切な湿度管理と薬剤防除により、病気の蔓延を防ぎましょう。

すすかび病 発生量: 平年並

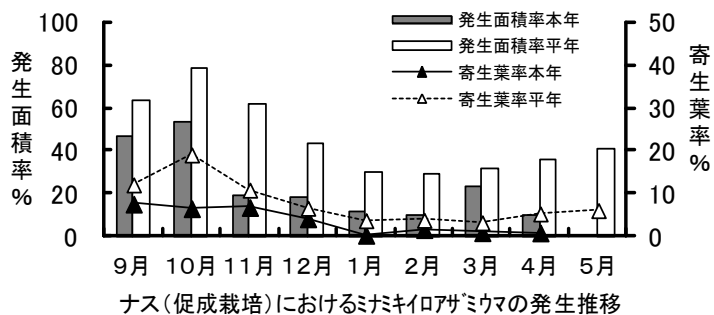


すすかび病は、県中央部と西部で多発生、東部では平年並の発生となっており、引き続き発生面積、程度ともに増加傾向で推移しています。灰色かび病は、県全域でやや多～平年並の発生面積となっており、程度の高いほ場も見られます。5月は晴れの日が多い予想ですので、特に発生が助長される条件ではありませんが、特に既発ほ場においては、降雨の後に適切な湿度管理を行い病気の蔓延を防ぎましょう。

灰色かび病 発生量: やや多

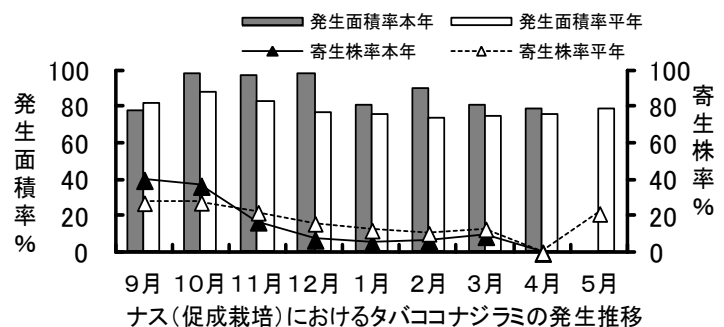


ミナキイロアザミウマ 発生量: 少



県全域で少発生となっており、発生面積も先月より減少しています。天敵の定着・増加により、引き続き少発生のまま推移すると思われますが、密度が高くなった場合は、微生物製剤や選択性殺虫剤等での防除が必要になります。

タバココナジラミ 発生量: 平年並



県全体に発生が見られ、発生面積は平年並ですが、発生程度は高くなく、成虫がわずかに見られる程度です。今後天敵導入ほ場では大幅な密度の上昇は見られないと思いますが、発生状況をよく観察し、初期防除に努めてください。

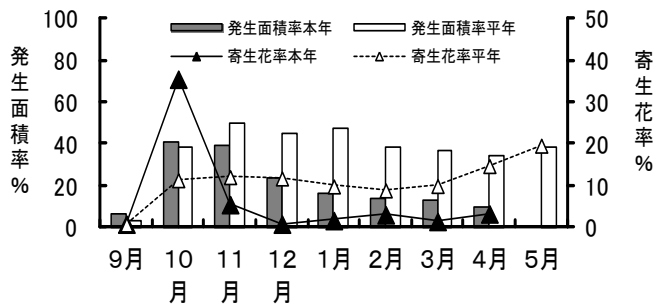
高知県病害虫発生予察4月月報及び予報第2号(5月)

野菜類ダイジェスト版

平成27年5月8日

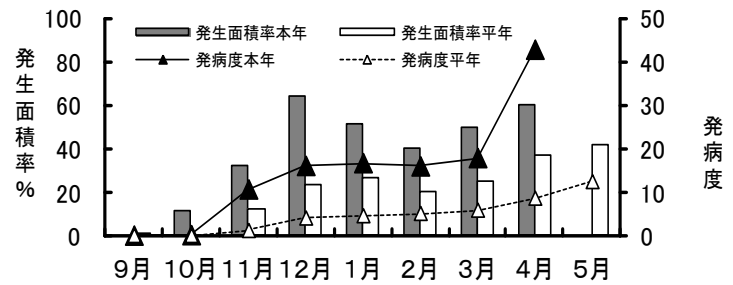
● 促成ピーマン(東部・中央部・中西部)

うどんこ病 発生量: やや多



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるミナミキロアザミウマの発生推移

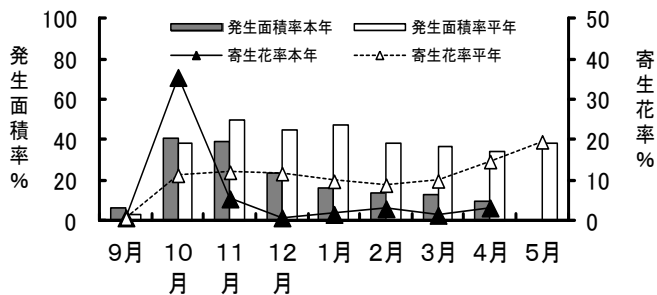
斑点病 発生量: やや多



ピーマン・シシトウ(促成栽培)における斑点病の発生推移

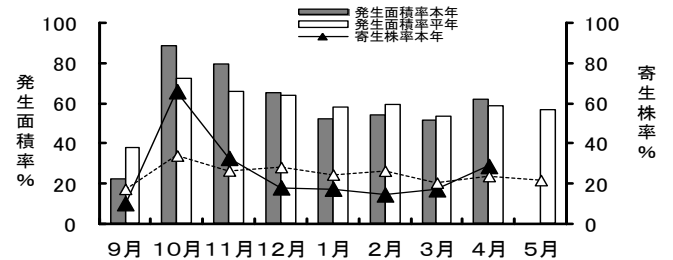
うどんこ病は県西部では多発生、中央部ではやや多発生、東部では平年並の発生となっています。また、斑点病の発生面積は県全域で平年並以上となっており、程度も全域で高くなっています。5月は晴れの日が多い予想ですので、特に斑点病の発生を助長するような条件ではありませんが、急な降雨の後に湿度が上昇した際などには、発生が広がる恐れがあるため注意してください。両病害とも蔓延すると防除が困難になるので、予防散布及び初期防除に努めてください。

ミナミキロアザミウマ 発生量: 少



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるミナミキロアザミウマの発生推移

タバココナジラミ 発生量: 平年並

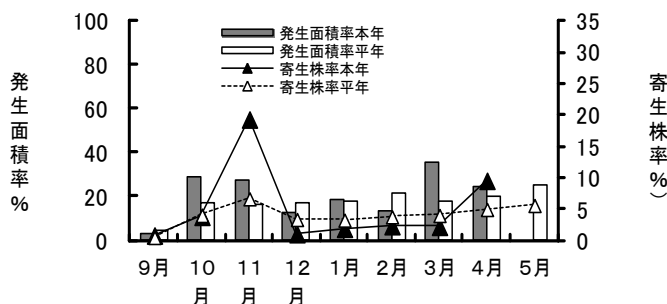


ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるタバココナジラミの発生推移

県全域でやや少～少発生と発生面積は少なく、発生程度も全般に低くなっています。天敵が定着しているほ場では当面問題とならない程度で推移すると思われます。薬剤散布を行う場合には、薬剤のローテーションを行い抵抗性の発達を回避してください。

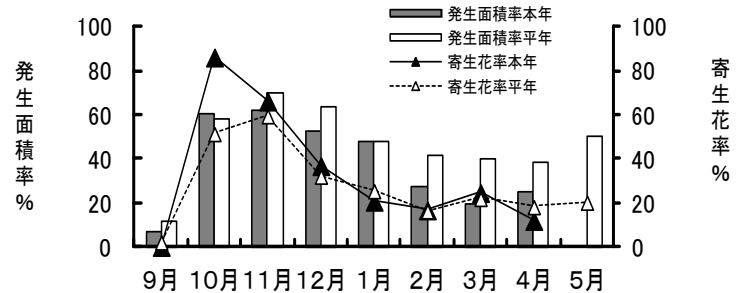
発生面積は県全域で平年並となっており、程度はやや多～平年並となっています。スワルスキーカブリダニの定着状況にもよりますが、コナジラミの成虫のみが見られる場合には、特に問題とはならず、天敵のエサとなっている程度だと考えられます。

アブラムシ類 発生量: 平年並



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるアブラムシ類の発生推移

ヒラズハナアザミウマ 発生量: やや少



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるヒラズハナアザミウマの発生推移

アブラムシ類は県中西部では多発生となっていますが、東部と中央部では発生面積は平年並、程度は低くなっています。ヒラズハナアザミウマは県全域で平年並～少の発生面積となっており、発生程度も全域で平年並～低くなっています。気温の上昇にともない急激に害虫が増加する場合があるので、注意してください。薬剤を散布する場合は各種天敵に影響の少ない農薬を選定しましょう。

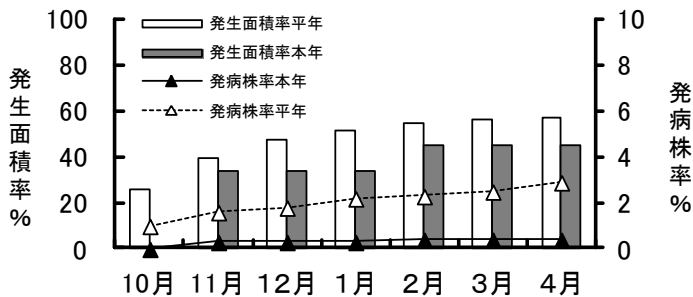
高知県病害虫発生予察4月月報及び予報第2号(5月)

野菜類ダイジェスト版

平成27年5月8日

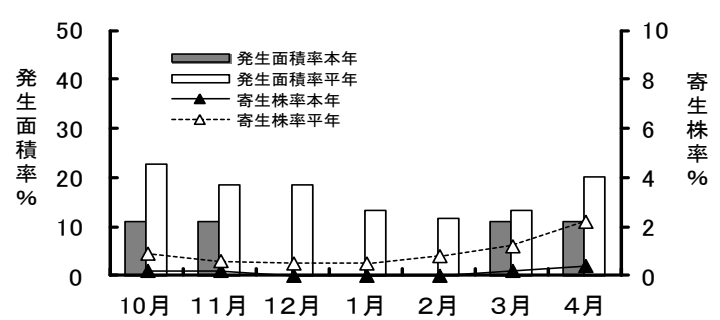
● 促成トマト(中央部)

トマト黄化葉巻病(TYLCV) 発生量: やや少



トマト(促成栽培)における黄化葉巻病の発生推移

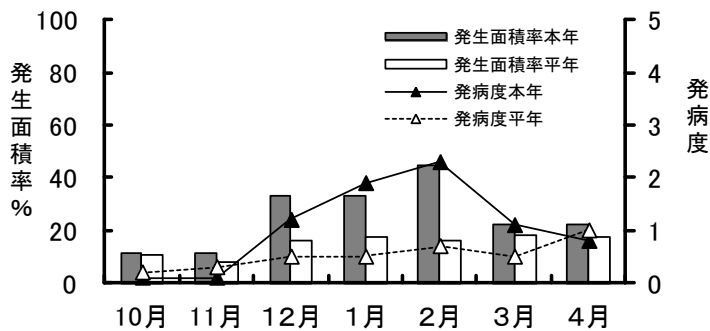
タバココナジラミ 発生量: 少



トマト(促成栽培)におけるタバココナジラミの発生推移

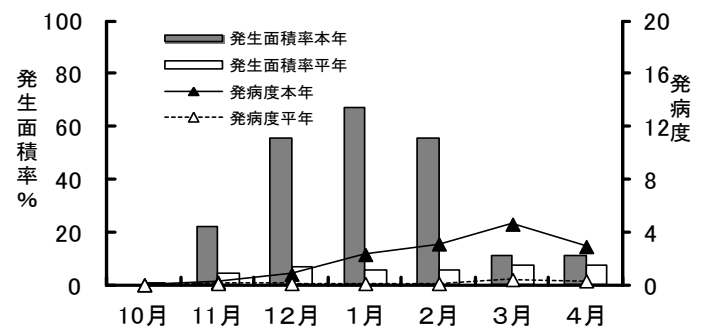
トマト黄化葉巻病の媒介虫であるタバココナジラミの発生は少発生となっています。トマト黄化葉巻病も発生程度は低く、発生面積もやや少なくなっています。発病株は感染源になりますので可能な限り除去し、タバココナジラミの発生が見られる場合には低密度のうちに防除しましょう。また、併せて粘着資材等による物理的防除も実施しましょう。

すすかび病 発生量: 平年並



トマト(促成栽培)におけるすすかび病の発生推移

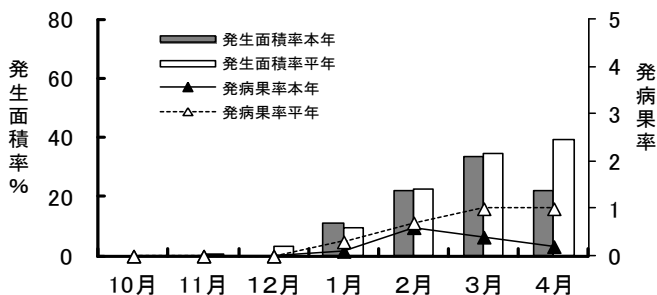
うどんこ病 発生量: やや多



トマト(促成栽培)におけるうどんこ病の発生推移

すすかび病は発生面積、程度ともに平年並まで低下しています。うどんこ病も平年と比べると程度が高いものの、先月よりは低下しています。5月の気象予報は晴れの日が多く、病気の発生を特に助長するような条件ではありませんが注意してください。適切な温湿度管理、草勢管理および防除を行い発生の増加を防止しましょう。また、すすかび病うどんこ病では防除薬剤が異なるので注意しましょう。

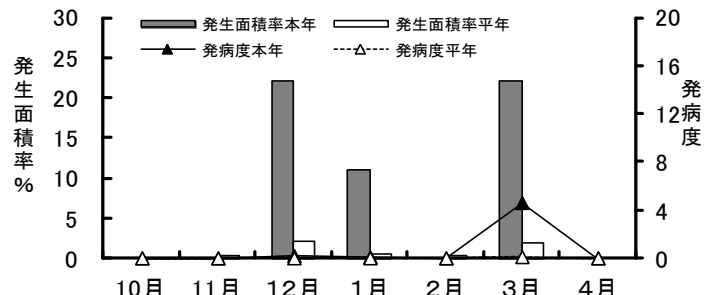
灰色かび病 発生量: 少



トマト(促成栽培)における灰色かび病の発生推移

発生面積は先月から減少しており、程度も低下しています。また、5月は晴れの日が多い予想ですので特に発生を助長するような条件ではありません。しかし、降雨があり湿度が高くなった際には発生が増加する恐れがあるので注意してください。

疫病 発生量: 少



トマト(促成栽培)における疫病の発生推移

先月と比べて発生は減少しています。5月は晴れの日が多い予想ですので急激に発生が増加する可能性は低いです。また、サイド際の水 droplet の落ちる場所で発生しやすい傾向があります。そのため、降雨があり湿度が上昇した際には発生に注意してください。